

# 第23回 全国都道府県対抗男子駅伝 遠野中 3年の小原快都さん 岩手のたすきを全力でつなぐ!

本市初の  
中学生選手

**全** 都道府県の中・高・大学生と社会人のトップランナーが一堂に会する全国都道府県対抗男子駅伝。その大舞台に、遠野中学校の小原快都さんが岩手県代表として出場を果たしました。同大会は1月21日、広島市平和記念公園前を発着点にして開催され、小原さんは全7区間の第2区(3\*<sub>a</sub>)に出走。本市初の中学生選手として、広島の地をがむしゃらに駆け抜けました。

体を動かすことが好きで、小学生のときにはすでに他の選手を圧倒する走りを見せていた小原さん。「今よりもっと早くになりたい」という思いから、陸上部が常設されている遠野中学校へ入学。陸上の名指導者でもある伊藤光則教育相談員の下で練習に励み、全国大会に何度も出場する県トップレベルの選手へと成長しました。今シーズンは、盛岡市内一周継走大会や県ジュニア選抜陸上大会などで1位を獲得。その実力を買われ、岩手県代表として選抜されました。

「大会前は、自分がチームの足を引っ張るのではと不安

でした」と明かす小原さん。連日降り積もった雪で満足に練習ができず、思うような結果が出せないのではと危惧していました。大会1週間前に広島市での練習が始まると、徐々に体が感覚を取り戻し、大会当日には本調子に近い状態まで戻すことができました。「チームメイトとコーチが支えてくれたおかげ。出たくても控えに回った仲間もいた。仲間の分も、走りて応えたかった」と話します。1区の走者からたすきを受け取ると、いつもより早いペースで2\*<sub>a</sub>地点を通過。4人を抜き去り自己ベストに迫る8分51秒で3区

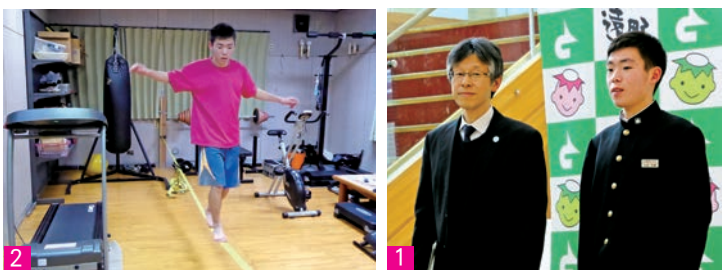
にたすきをつなぎました。

小原さんは、4月からスポーツ強豪校に進学予定。「記録にも記憶にも残る選手になりたい。まずは全国大会出場を目指します」と力強く目標を語りました。



小原 快都さん  
(遠野中3年)

◎プロフィール  
平成14年10月、宮守町に生まれる。小学生の時、遠野市を訪れたサッカー日本代表の香川真司選手との交流で、夢を追いかけることを決意。第48回ジュニアオリンピック陸上競技大会にも出場。



1\_市役所本庁舎で行われた激励会。大会での活躍を誓った 2\_外の練習が難しい冬場は、室内練習がメイン。自宅のトレーニング室で自主トレに励む 3\_大会でラストスパートをかける小原さん



1・2\_現地の学校で遠野や日本の文化を紹介  
3\_約千人の前でよさこいソーランを堂々と披露  
4・5\_国や文化を超えた友情を育みまし  
た 6\_現地の学校でステッカー作りの授業  
に参加 7\_遠野名誉親善大使のルーザ・メ  
シッチさん(後列右端)や昨年まで本市で国際化  
推進支援員を務めたアレックスさん(前列左端)  
らが派遣生の滞在をサポートしてくれました

Hello!  
Chattanooga!



財団のフェイスブックに滞在中の模様を紹介!  
滞在中の詳しい模様は、(一財)遠野市教育文化振  
興財団の公式フェイスブックで紹介しています。



F B 遠野市教育文化振興財団 検索

昨年11月まで遠野市教育文化振興財団の国際化推進支援員を務めた、アレックス・ヒューイさんが派遣生の滞在をサポート。派遣生は市内の観光地などを一緒に巡り、同市への理解を深めました。  
今年の夏には、CSAS校の高校生が遠野に交換派遣される予定。姉妹都市の絆が、さらに深まることが期待されています。

中学生海外派遣交流事業(一財)遠野市教育文化振興財団主催)は、本年1月5日から17日までの13日間の日程で行われました。今回派遣されたのは、藤澤萌さん(遠野中2)、昆柚葵さん(同)、榊原和果さん(同)、阿部光沙季さん(遠野東中2)、菊田ひかるさん(同)、千葉凜奈さん(同)、菊池愛理さん(遠野西中2)、熊谷瑠莉さん(同)、谷藤百香さん(同)。9人は、ホームステイをしながら現地のCSAS校に通学しました。  
派遣生は、現地の生徒たちと英会話や折り紙を使って遠野や日本の文化を紹介。また、全校生徒の前で唱とよさこいソーランを披露し、約千人の観衆からスタンディングオベーションを受けました。

中

学生9人が海を渡り、本市の姉妹都市・米国チャタノーガ市との友情を深めました。